

地域の形状と構成

1. 私達の地域は、東に阿賀野川が流れており、その沖積地を主体にして存在している。従って、能代川に近い程低地になっている。  
 古くは、中新田、大安寺、上金沢、下金沢(東)をもって阿賀浦村と称した時代もあったが、現在は新津東町、新金沢町、東金沢、大安寺、中新田の5町内区で阿賀浦地区と称している。  
 この地区の西端を、(旧)能代川から分流された(新)能代川が桜並木の堤防に囲われて流れており、更には東金沢の東側を磐越自動車道が、共にほぼ南北に横断していて、かつての風景を一変させている。

2. 各町内の点描

(1) 新津東町(にいひがしちょう)

通称東町は1. 2. 3丁目に分かれているが、かつては大字西金沢、大字満願寺、大字東金沢、それぞれの一部に属していた。地形的には低湿地帯にもなっていたので、耕地整理が行われた田んぼであっても、軟弱地が多く残っていた。

開発以前の通称小字名を挙げると、下池、土城池、太田沢、かに沢、つなぎ橋など、「池」とか「沢」のついた所が多かった。

今に残る旧跡としては、餓鬼地蔵、鎮宅靈符塔、旧鉄道学園(現新津地域学園)、がある他、新興住宅地になり医院、商店などができた。

(2) 新金沢町(しんかなざわちょう)

昭和16年(1941年)から始められた耕地整理(区画整理)事業によって、それまで不定型耕地であった田や畑などが、1反区画(300坪10間×30間)にされた結果、余剰耕地が生まれた。その耕地を一か所に集積して再利用する計画等もあったらしいが、第二次世界大戦突入に伴う食糧事情の悪化などから、小学校高学年用の農業実習地などにされた。

戦後、学制改革もあって校舎としての再利用や住宅団地化するなど現在に至る。  
 この中心地帯は、かつて上池と呼ばれる低湿地であったが、耕地整理の完工に併せて排水事業も竣工するに至り、懸案が解決して現在に至っている。

新金沢町には商店街も開設されるなど、隆盛を極めた時代もあった。更には、新金沢町保育園が開設されたほか、町内では新金沢町会館も設けられていて、地域の交流の場にもなっている。

(3) 東金沢(ひがしかなざわ)

かつては、金沢と呼ばれた地域で、「金」とつく地域は金属工業に関する土地であるともいわれており、そうした事業と関連する土地柄であったようだ。

村の開発は、大安寺、中新田と同時に、新発田藩の分家が在る沢海藩溝口氏の開発奨励策によって、慶長年間に開かれたそうだ。地域内に残る遺跡として、大道庵、神明宮、七体地蔵尊、馬頭観世音があるほか、近年遺跡調査が行われた結果によると、今から一千年以上前の先住民のいた形跡が発表されている。現在は地域内に下越病院があり、それに関連する施設や薬店も多くできている。

(4) 大安寺(だいあんじ)

坂口安吾の本籍と墓所のある地として名高く、今にして訪れる人も多い。それだけに見どころも多く「阿賀浦地区の宝箱」と言われる程である。

この地区の開発には、満願寺の人たちの協力があり、その子孫の人たちの一部は、この地に残り、明治16年には大安寺、中新田に住所が変えられた。

(5) 中新田(なかしんでん)

現在も交通の要衝になっている中新田は、阿賀浦橋と羽越線鉄橋が並列して阿賀野川に架設されているという風光明媚な地である。かつては新津市民の喉を潤したり、蒸気機関車の水を取り入れるといった重要な役割でもあった。現在は、磐越自動車道「新津インターチェンジ」ができ、周辺の整備が進んでいる。

地域には神明宮、公民館、保育園などが現存するほか、かつての中新田浄水跡を示す碑文も残されている。

# 阿賀浦地域のお宝さがし



## 阿賀浦コミュニティ協議会

住所：〒956-0816

新潟市秋葉区新津東町2-5-6

発行年月：平成27年8月

### 阿賀浦地域のお宝さがし(秋葉区コミぶら散歩事業) 阿賀浦コミュニティ協議会

